

福島民友の編集日記
に「ぎやかな過疎」
の言葉が紹介される。
人口減による過疎が進
んでいるものの、地元
の人々と移住者の交流
がさらに移住者を呼

フリー山ト風 (現場)からの風

宮田 守男

㉖

び、多様な人材に富んだ活気にあふれ新しい動きがたくさんあります。がやがやとした雰囲気が伝わってくるそんな地域を称するのだそうだ。話題を発信し続ける白馬地域も同じなのだうと嬉しくなる。

2月に村外に住む知人が、八方尾根スキーフィールドでコース外滑走する顧客と「スキーパート」「ル員の『言い争う』報道が心配になったと話す。そしてスキーコース外でのバックカントリーの話題だ。知人は、「バックカントリーエリアでの世界大会開催の情報で白馬ではコース外での滑走が

可能になつたと思つていた」との発言に驚く。さまざまな斜面を滑走できる八方尾根ツリーランエリアは、安全を考慮した利用規定が定められ、エリア範囲も限られている。だが他の

を含む一帯での植生活動などの地道な活動で自然との共存を世界にアピールする八方尾根。だがコース外滑走の主な舞台は、八方尾根の沿山を担う貴重な森林帯、植物を傷つけ雪崩も誘発し、死し事

これまで培つてきた観光資源を失わない戦略への知恵が問われている

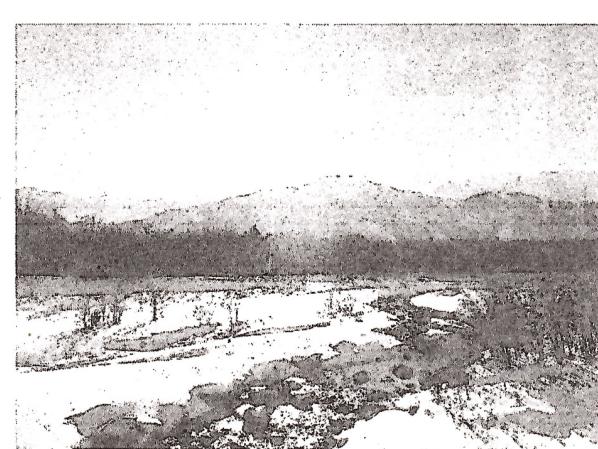
コース外を滑走する多くの情報が発信されている事も事実だ。

一部の顧客が滑走禁止区域に立ち入ってしまった原因が大会開催だとの声も聞こえてくる。八方尾根自然環境保全協議会のゲレンデ

に「ぎやかな過疎」の言葉が紹介される。人口減による過疎が進んでいるものの、地元の人々と移住者の交流がさらに移住者を呼

を含む一帯での植生活動などをめぐる問題が、最大積雪深が15~30cm減、そして雪質が劣化する温暖化の影響が危惧される中、コース外滑走は自己責任で勝手にどうぞの在り方が本当に良いのか考えさせられた事案でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

は、眞白な山中でターン・ジャンプを決めて雪煙をあげながら滑走する醍醐味や達成感は魅力的だが、残念ながら白馬の雪質は、適しているとは言い切れない。事実予定されたフリーライドスキー・ス



世界的に評価される八方尾根の守るべきものはと、山からの声が聞こえてきそうだ